

奥州市

力強い農業をつくる「懸け橋」に

農業委員会 だより



第4号

【発行日】平成19年12月27日

【発行】奥州市農業委員会だより編集委員会

【印刷】(株)正和印刷



委員会活動

農業者年金特別研修会

加入推進部長になつて

農業者年金加入推進部長の研修会が7月30日、盛岡市のホテル紫苑で行なわれ6名が参加しました。

農業者年金は「農業者にもサラリーマン並みの年金を」ということで、昭和45年に農業者の老後保証と農業の構造改革との両面から検討され設立された賦課方式確定年金でありましたが、制度改正により、平成13年度に積立方式となり、自らが積み立てた保険料と国庫補助金、その運用益で将来受け取る年金額が決まる制度になりました。（運用益は平成14年より18年までの5年間で平均3・45%。）

他の年金では加入者が手数料を負担するようになっていますが、農業者年金は国費で賄っており、運用益は税制上非課税です。自分の積んだ保険料と国庫補助金、それらの運用益がどうなっているか個人毎にわかるよう毎年通知が届きます。

保険料も自分の経済事情により選択でき、経営や生活にゆとりのない時は少なく、ゆとりのできた時には保険料を多くして将来に備えることができます。充実した老後には国民年金だけでは足りず農業者年金で少しでも上乘せする必要がります。

農業者年金では納めた保険料の全額が所得税、住民税の社会保険料控除の

対象になり節税効果もあります。（※民間の個人年金保険の場合は、税制上控除額の上限は5万円です）農業者年金はかなりお得です。

また、終身年金ですので、生涯定期

平成19年東北・北海道農業活性化

フォーラムに参加して

8月31日に青森県奥入瀬溪流グラウンドホテルにおいて行なわれたフォーラムに総勢39名が参加しました。

横浜国立大学大学院教授の田代洋一氏が講演された「地域農業活性化と農業委員活動」は非常に興味深いものでした。

農地制度の理念「自作農主義」が生前一括贈与や相続税の納税猶予制度と密接な関係にあること、また、利用権による株式会社での農業参入は将来的に所有権も容認する可能性があるなど。

高齢女性への農地相続も増えており、耕作放棄地対策も含め農業委員の活動が重要となつており今がまさに正念場です。気を引き締めて頑張らなければと思ひました。

その後は、委員互助会による研修として、第3セクターから会社方式にし

的に支給されて安心です。
仮に80歳前に亡くなった場合でも80歳までの年金が保証され、死亡一時金が遺族に支給されます。

農業者年金は高齢化社会に相応した積立年金で、老後の自助自立にかかせぬメリットの多い年金制度です。この優遇された制度を広く農業者に伝え推進していきたいと思ひます。

（農政部長 木村 正）

て実績をあげている道の駅「なみおか」アップルヒル等の視察を行いました。

（委員互助会長 鈴木 哲也）



水田状況調査を実施

今年で2回目となる奥州市の水田状況調査は、9月10日、江刺総合支所での農地パトロール出発式を経て行なわれました。

時間の制約もあり、各区から調査水田2ヶ所ずつ選定して、マイクロボス2台に分乗し市内を巡回。今回は、総じて中山間地いわゆる奥州市の外郭と言っても過言ではない地域をめぐり、各箇所地区の委員から説明をいただきました。市内を一度にくまなく調査するのは到底不可能であり、回を積み重ねていくことで今後の委員会活動の礎の一つになるものと思われまます。

今後、この調査を参考にしながら「行政に対する建議・要望等の提案」を各委員からしていただき、農政部会で集約、委員会総会で承認決議し、行政に働きかけることとなります。

全体的に今年台風の直撃もなかったため、倒伏もカメムシ被害も少ない状況です。しかし大雨による北上川増水のため、前沢生母地区では浸水し、収穫時に機械に砂が入るなどして故障が多発するなどの影響がありました。収穫の時期を終え家族・地域で鍋を囲むなどして実りを喜びたいところですが、最近の新聞・テレビでは米価の下落・食料自給率39%、米消費量平成25年までに2割減、新コメ政策の見直しなどの話題ばかりです。ついつい時

間も忘れて注視してしまうのは私だけでしょか。縄文・弥生時代から人間の糧として、環境保全の役割として、続いてきた稲作。この季節に皆で考えたいものです。

(農政部長職務代理 村上 多悦)

岩手県農業委員大会で受賞

11月9日に盛岡市民文化ホールで行なわれた標記大会に、農業振興部会の14名が出席しました。この大会において奥州市は次のとおり表彰されました。

- 農業委員等活動表彰
活動記録部門 (農業委員部門)
高橋直志 委員
(活動件数 131件)

- 農業者年金部門表彰
農業委員会部門 奥州市
(委員1人当たりの年間加入者数が1.2人)
農業委員部門 岩瀬 寿子 委員
(年間加入者数 13人)
● 農業者年金基金理事長表彰
奥州市農業委員会

当日のパトロール地区

江刺区伊手字隅川地内
江刺区田原字根木町地内
水沢区黒石町字下ノ在家地内
水沢区黒石町字山内地内
前沢区生母字二子地内
前沢区字干場地内
衣川区下大森地内
衣川区衣原地内
胆沢区若柳字下横沢原地内
胆沢区若柳字宮沢原地内

平成20年1月1日現在の状況を記入してください

12月27日の行政区長配布により、農業委員会と選挙管理委員会から標記申請書が配布されておりますが、これは農業委員の選挙の際に必要な選挙資格に関わる大切なものです。

この申請書に基づいて、農業委員選挙人名簿が作られますが、この名簿に記載していないと投票もリコールの請求もできなくなります。期日までに行政区長、または各総合支所農業委員会分室へご提出くださるようお願いいたします。

農業施策に対する要望書を提出

12月13日、市長応接室において、奥州市農業委員会の要望書を提出しました。要望内容は市に対して、①農業振興方策について②遊休農地の解消対策について③カメムシ対策について④農畜産物のブランド化について⑤農地情報の一元管理と情報提供についてのほか、国・県に対しての⑥米価下落対策について⑦中山間地域等のほ場整備の促進について⑧大雨・洪水被害対策について⑨農村地域の人口減少対策について、の9項目です。

提出後には懇談が行われ、要望書については後日回答をいただくこととなりました。



各区から

水沢区

「救農に夢を重ねて」 結いっこ館のチャレンジ

水田単作地帯である館集落で、地区内の農地の維持、活性化の一助になればと心ある仲間数人により「結いっこ館」が立ちあがりました。契機は、地区内で農作業の受け手がなかなか見つからず他地区の認定農業者に委託したことがあり、地元で請け負う組織や窓口が欲しいと思ったからです。

当地区は、東は東北本線、西は県道水岩線、中央には国道4号線があり、商業地域で農家の耕作面積も8割が1ヘクタール以下。兼業農家の方ばかりです。

昔から厳しいといわれてきた水田農業ですが、「先祖から受け継いだ農地を泣かすわけにはいかない」「顔を寄せ合い、ぶつかって、体験して知恵を出し合ってこの地の農業を守りたい」という想いがありました。そのためには地区民の協力が必要ということで、非農家の皆さんを含めた新年会を設けるなど懇親にも取り組んできたところ、その甲斐あって3名の方が協力してくださることになりました。これは大切な力であり大きな励みです。

「大型農業や集落営農への取り組み

はこの組織のあり方によって大きく分かれると思います。本格的な活動はこの春から。おらほの特色はこれだ！というものを探し求めて活動していきたい」と代表の岩淵嘉一さんは語ります。



江刺区

ようこそ石丸さん 農林水産省から研修生

愛宕の岩淵勝治さん寿子さん宅に、9月25日、農林水産技術会議事務局から石丸彰子さんがやってきました。職場では遺伝子組換え技術や原子力安全に関する仕事をしています。

今回の農村派遣研修のテーマは「技術や研究成果普及の円滑化と、それらを生かした農産物のブランド化」。1ヶ月滞在しての感想を一部掲載します。

新品種リンゴや洋ナシを試食、一般的なスーパールのリンゴはほんの一握りの品種と実感。(県農業研究センター)



研修を終えた石丸さん（中央）と岩淵夫妻

リンゴの中身をチェックするセンサーや自動化による作業の正確化は品質の信頼性を維持・向上させるために必要不可欠なもの。(JA若手江刺選果施設) リンゴをまんべんなく赤くするためにこれだけたくさん手がかかっている(ほ場作業) すごいスピードで農地が宅地化。農地が虫食い状になれば作業効率が悪くなり、ゆくゆくは農地がなくなってしまうのではないかと(農業委員会農地部会) 農村は都会と比べて協同作業や交流機会が多く、地域社会の濃密なつながりを生み出しているが、そうでなければ農業は出来ないのかも(生活面)

関西出身のため、ずんだもち、いものこ汁、すいとん、だまこ餅は初体験だったそうで、豆の皮を外すところから作ったずんだもちに感激したそうです。お土産に「すいとん」のセットを購入した石丸さん。うでまえを披露しにぜひまたいらしてください。

前沢区

生母地区の若者達が 稲ワラ確保に大奮闘

全国に名高い前沢牛。その前沢牛を肥育する畜産農家の20代の後継者達の取り組みを紹介します。

農家数の減少により飼育頭数が減少する中、彼らは長年飼養経験のある両親の指導を受けながら増頭に励んでいます。ところが近年、コンバインの普及により稲ワラが細かく裁断されるようになったうえに、ワラを結束し立て乾燥させる作業も人手が不足し、天日干しにした粗飼料を確保することが難しくなってきました。

そこで彼らは今年、「耕畜連携水田活用対策事業」を活用し、生母2区営農組合でカッティングローラーを導入してもらいました。この機械だと、ほ場にちらしてあるワラを切断しながらロール状にでき、人手をかけずに稲ワラが確保できます。

しかしながら、今年は大雨による水害で、赤生津地域を中心にワラの確保が難しくなり、古城、前沢地区の営農組合に呼びかけたところ、なんとか20ヘクタール分を確保できることに。

幸いにもその後は天候に恵まれたこと、水田がほ場整備により大区画であったことから作業は順調に進みました。彼らは、仲間との連携もよく、大型のトラクターや作業機等を効率よく動かす姿は見ていてとても頼もしく感じられます。

農業に厳しいこの時勢ですが、彼らの積極的な姿勢を見て、地区内外から連携してバックアップしようという気運も高まってきています。おかげで稲ワラと堆肥交換をしたいという依頼も増えてきているようです。



地域の期待を受ける凛々しい姿！

胆沢区

祝！農林水産大臣賞受賞 おやつ屋代表 及川久仁江さん

若柳在住の及川久仁江さん(44)は今年度新設された農林水産省の「明日の農山村を担う女性表彰」で最高賞の農林水産大臣賞に輝きました。同表彰は、農業経営や社会に活動に参画しモデル的な取り組みをしている全国46人の中から受賞です。

活動の原点は平成10年にグリーンツーリズムの盛んなドイツ研修に参加し、このままではダメだ、自分達も何か出来ないか、と考えたこと。さっそく翌年に幼稚園仲間の母親9人で保育支援の「わがまま倶楽部」を

結成。低農薬・低化学肥料での野菜・花の栽培に取り組むとともに、夢を年次計画(5年間)に作成して着実に実行に移し、産直・加工工房、農家レストランの設立に大きく貢献しました。現在は、「産直おだづめ」メンバーのほか、手作り菓子「おやつ屋」の代表として活躍中。無化学肥料の米作りに取り組むなど農業にも力を入れていきます。

一方、4人の母親でもある及川さん。平成13年に新たに作成した「私の100年計画」には、子供達がいつでも安心して暮らしていける地球にしていきたいという願いが込められています。「農業は失敗も自分の責任。すべて自分で考え、自分の手でできるので大変だけれど醍醐味があり魅力的」と熱く語る及川さん。明るく何事にも前向きに取り組む姿にますますの活躍を期待します。



及川さんは下段右から2番目

衣川区

ジャンボカボチャが 勢揃い!!



地域住民が育てたカボチャの大きさを競う恒例イベント「川西ジャンボカボチャ祭」が9月16日に川西地区のポケットパークで開催されました。

今年は天候に恵まれたため生育が良好で出展数は66点。

その中で重量70・7kgを記録した三浦丈之進さん(平地区)がみごと1位に輝きました。2位に10kg近い差をつける特大サイズ!

平成11年度から開催されているこの大会。学年ごとに出品する衣里小学校や衣里幼稚園の参加も祭りを盛り上げており、カボチャの栽培・収穫を通して地区民のコミュニケーションがはぐくまれています。



代理受領は三浦知恵子さん

〈農地の「権利移動・転用」する場合は許可が必要です〉

農地の貸借や売買をしたり、転用するときは、許可を受けなければなりません。また、許可後に目的を変更する場合も変更手続きが必要となります。農業委員会で手続きをしてください。

申請から許可までの手順

標準的事務処理の流れは次のとおり。

- 受付期限 毎月月末(休日の場合、次の業務日)
 - 農地部会による決定 翌月20日(休日の場合、前後の業務日)
 - 許可書の交付
 - ・貸借・売買の場合 部会月の月末(農地法第3条許可)
 - ・転用の場合 部会月の翌月17日頃(農地法第4条・5条許可)
- 詳細については、農業委員会事務局の各分室または本庁農地係へお問い合わせください。

● 奥州市農業委員会事務局

水沢分室	24-2111(295)
江刺分室	35-2111(251)
前沢分室	56-2111(242)
胆沢分室	46-2111(313)
衣川分室	52-3111(213)

●農地パトロールの結果報告

遊休農地の現況把握と解消を目的に実施しました。結果は次のとおりです。(調査期間 11/1 ~ 11/15)

	農地所有者数	総面積	うち耕作可能面積	うち原野化	農振区分	
					農用地	白地
水沢区	18人	30,255㎡	13,231㎡	17,024㎡	25,744㎡	4,511㎡
江刺区	13人	52,299㎡	51,709㎡	590㎡	52,299㎡	0㎡
前沢区	32人	51,350㎡	45,479㎡	5,871㎡	36,814㎡	14,536㎡
胆沢区	12人	51,096㎡	15,140㎡	35,956㎡	51,096㎡	0㎡
衣川区	6人	23,234㎡	16,831㎡	6,403㎡	20,860㎡	2,374㎡
合計	81人	208,234㎡	142,390㎡	65,844㎡	186,813㎡	21,421㎡

結果：市内全域に遊休農地は散在しているが、山間部に見られる耕作不便地に多い。また、相続等により取得した不在地主所有にも見受けられる。全体的に年数の経過したものが多い。

農業者年金に加入しよう♪

国民年金受給だけでは1人あたり1ヶ月に6万6千円にしかありません。(注)40年間保険料を支払った場合。(社会保険庁HPより)

幸せな老後には「健康」「友達」「自由に使えるお金が必要です！

農業者年金に加入し、少しでも多く年金をもらいましょう。奥州市では昨年61名が加入しています。



前号で佐倉河小学校の田植えを紹介したところ収穫祭に招待されました。生徒さん手づくりの手巻き寿司の味もさることながら、班ごとの学習発表にびっくり。世界のお米料理から品種改良、働く人の気持ちや工夫まで、とても幅広いものでした。元気な子供達に大人も負けてはいられませんね。

表紙の写真の中で、岩手県農地パト

編集委員長	千田宗男
副編集委員長	千葉政三
編集委員	渡辺義憲
	岩淵忠憲
	佐藤智
	鈴木敏生

ロールキャラバン隊から県知事の手紙を会長が受け取っているものがあります。NPO法人「岩手ふるさとボランティア」の大森さんが持参されました。農地を守る取り組みが市民団体に広がっていることを感じました。

編集後記

その一方、農林水産省は、食料自給率が39%に低下したことなどにより、「農地政策の展開方向」という5本柱の政策を公表したが、「農地の所有から利用への転換」により、企業などに利用権を自由化し、「標準小作

懸念頑張っている。

米の価格は毎年下がる一方で、今年の基本仮渡金は前年比で約800円減。大規模農家ほど打撃を受け、生産費さえ支払えない事態が発生するのではないかと心配される。

耕作放棄地の増加は農家の責任のように言われているが、農政の舵取りが影響しているのではないかと思えて仕方がない。農業もグローバルゼーションの真っ只中にさらされていることは承知しているが、もっと血の通った暖かい農業政策を望みたいものである。(編集委員長)

道端

奥州市は、ひとめぼれを中心とした穀倉地帯で、ほ場整備が進み、認定農業者や営農組合の農用地集積の推進によって遊休農地解消に努めている。

これら担い手は、本年度から始まった品目横断的経営安定対策に積極的に取り組み、規模の拡大や経費節減と経営効率の安定化を目指し一生懸命頑張っている。

料制度は廃止」とするという。農地改革については、遅くとも平成21年度中には新しい仕組がスタートできるよう具体化するとしているが、農家の混乱を考えると容認できるものではない。